

AAPシンポジウムから

アジアのAハレル生産の今

アジア・アパレルものづくりネットワーク(AAP)は12日、東京都港区のメルパルク東京で、設立7周年を記念し「アジアのアパレル生産新時代を担う」をテーマに、シンポジウム(基調講演とパネルディスカッション)を開いた。AAP会員のアジアに広がった生産背景の現状を紹介するとともに、アパレル生産の課題や展望が発表された。当初150人の参加予定だったが、受講希望者が多く260人が集まり、チャイナ・プラス・ワンへの関心の高さをうかがわせた。

●EVFTA発効に期待

第一部では、日本貿易振興機構(JETRO)の小林恵介海外調査部アジア太平洋課課長代理が「チャイナ・プラスワンの現状とこれから」と題して基調講演。AEC(アセアン経済共同体)が2015年末に発足し、域内の関税はほぼなくなったと報告した。しかし、域内貿易量はほぼ変わらず、域内輸入はむしろ低下した。中国からの輸入が増大し、日本や米国からの輸入も減る傾向にある。輸出面でも中国向けが上昇し、対米、対中は

38%、インド224%でベトナムは204%、カンボジア175%、ラオス141%、ミャンマー124%、バンクラーデ11%、諸手当や社会保障費、残業代を含



小林氏のジェトロ

167%、バングラデシュ2042%である。欧州連合(EU)・ベトナム自由貿易協定(EVFTA)は合意され、各国で批准手続きが始まっている。発効されれば、7割のサンテイクループは「中国25%、ベトナム75%」が半々だったが、今は中国25%、ベトナム75%、ラオス5%、中国50%、ベトナム20%、ラオス15%、インドネシア10%、バンクラーデ5%に、ロックスも「12年の中国95%、カンボジア5%が、今は中国40%、カンボジア60%に逆転」した。サンエは「11年時点では中国生産が85%を占めたが、今は中国とASEAN地域で半々」、小島衣料は「10年は中国生産が100%。今は中国30%、バンクラーデ50%、ミャンマー20%」、丸久も「11年で中国生産は72%だったが、今は25%に縮小。バンクラーデ65%、タイ7%、ミャンマー3%」である。

では「ドル換算で一般業務に97%、幹部には20%を支払う。労働力はあがるが、立地もあって賃金が低下を懸念。繁忙期はいいが、閑散期に工夫を凝らす。生産性は中国と比べ6割くらいだが、経営は黒字(小島衣料)だ。バンクラーデは「給与は117%。定着率は高。労働力も選べる環境が続く。当初は量販店向けが多かったが、婦人服OEMや専門店の受注課題では、労働力が豊富でも幹部人材不足が複数を挙げられた。法整備の遅れ、多能工的人材育成などもある。今後については品質や生産性の向上、リードタイム短縮、閑散期対策、工場拡充、コンプライアンス対策などに取組むという意見が出た。

●ASEAN地域へシフト

第二部では共通質問に答えるが700万人なので人が集まらない。受注は郊外型専門店や量販店から切れ間なくある。生産性は中国の7割くらいで、工場は黒字化した(サンテイク)。カンボジアは「月41日の最低賃金が153%になった。12年ごろは人が集まらなかったが、今は口コミで集まる。受注量も増加、中国の7~8割の生産性が経営はトントン(ロックス)になった。

工場を取り巻く環境変化では「ベトナムの最低賃金は11年の月50%が今は114%。周囲に工場ができ、託児所を設けるなど人集めに工夫を凝らす。繁忙期は受注がオーバー気味だが閑散期は受注が少なく対策が必要(湯峰ソーイング)。「オスの最低賃金は11年の月70%増という。ミャンマー

富でも幹部人材不足が複数を挙げられた。法整備の遅れ、多能工的人材育成などもある。今後については品質や生産性の向上、リードタイム短縮、閑散期対策、工場拡充、コンプライアンス対策などに取組むという意見が出た。

学 講演会より



右からロックス、サンテイ、湯峰ソーイング

製造業・作業員の月の基本給はインドネシアが298%、フィリピン298%、インドネシアが114%。周囲に工場ができ、託児所を設けるなど人集めに工夫を凝らす。繁忙期は受注がオーバー気味だが閑散期は受注が少なく対策が必要(湯峰ソーイング)。「オスの最低賃金は11年の月70%増という。ミャンマー



右からサンエヌ、丸久、小島衣料

富でも幹部人材不足が複数を挙げられた。法整備の遅れ、多能工的人材育成などもある。今後については品質や生産性の向上、リードタイム短縮、閑散期対策、工場拡充、コンプライアンス対策などに取組むという意見が出た。